

★暗唱聖句

「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はい
ただきます。」

マルコによる福音書 7章 28節

★ねらい

- ・ギリシア人の女性が、真剣にイエスさまに向き合ったことにより、イエスさまから求めるものを与えられたことを知る。
- ・文化や習慣が違う外国人であっても、心を開いてむきあっていくときに、お互いが通じ合い、豊かにしあう関係が生まれてくることを知る。

★説教作成のヒント

- ・最初、イエスさまが女性の願いを断ることに違和感を感じるかもしれない。そこで、「外国人は神さまを信じない人たちだ」ということが前提とされていた、という、という当時の社会についての背景説明を加えたい。
- ・日本社会の中でも、外国人が暮らしにくい環境の中で生き抜いていることを、できれば身近な事例の中から拾い出してメッセージを豊かにしたい。

★豆知識

- ・ティルス（現在のトルコ）の地方というのは、イエスさまが活動されたガリラヤから見て北方の外国にあたる。聖書巻末の地図「6. 新約時代のパレスチナ」が参考になる。
- ・当時、精神的な疾患は悪霊の仕業と考えられていた。

★説教

みなさんの身近に、外国人のお友だちがいますか？ そのお友だちと、みんなは仲良くできているでしょうか。

タツロウくんは、おなじ班のカズヤくんが、あまり好きではありませんでした。何故かという、一緒に遊ぼうと思って誰かが話しかけても、すぐにアッカンペーをして、みんなの輪の中に入らずに逃げていってしまうのです。だから、みんなで遊ぼうと思っていても、カズヤくんがいると、なんだか盛り上がれない感じがします。忘れ物も多いし、そのせいでいつもタツロウくんの班は、クラスで一番になれないのです。それである日、タツロウくんは、家に帰ると、お母さんにカズヤくんの文句を言いました。

すると、お母さんは、「たっちゃん。あそこの家のお母さんは外国の方なのよ。忘れ物が多いのは、学校からの日本語のプリントを、お母さんが読めてないからじゃないかしら」、と教えてくれました。カズヤ君も日本語がまだ充分には出来ませんし、外国の人が、日本で生活していくには、なかなか大変なことが多いのです。タツロウ君は、それから、自分がカズヤ君の最初の友だちになろう、というふうに決めました。そして、学校でもらったプリントについて書いてあることを、出来るだけカズヤくん（カズヤ君）に説明してあげることにしたのでした。

今日の聖書に出てくる女の人も、イエスさまやお弟子さんたちが暮らしていたユダヤの国の人たちから見たら、外国の人でした。ユダヤの国の人たちは、何かというと、神さまのことを信じていない外国の人たちを、自分たちよりも下に見ていたのです。

もしかしたらイエスさまの中にも最初、「この人は外国の人だから、神さまを信じない人なのだ」、という思いがあったのかもしれませんが。それで、最初にこの人が、自分の子どもから悪霊を追い出して病気を治してほしいと頼んだ時に、「子供たちのパンを取って、小犬にやってはいけない」、と言って、そのお願いを断ったのです。ここでは、子どもたちというのが、ユダヤ人の困っている人たち、小犬というのは、外国人の人たちのことを意味しています。外国人のことを小犬というのは、外国人のことを下に見た表現だと感じられますよね。けれどもこの女の人は、1回断られたくらいでは引き下がりませんでした。「食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます」、と言ってイエスさまに食い下がりました。この女の人が、真剣に、一所懸命にイエスさまに願い求めている様子を見て、イエスさまは心を動かされたのでしょうか。人と人との出会いが、それまで持っていた先入観や、知らない国の人たちを見下すような思いを越えて、イエスさまの心を動かしたのです。女の人が家に帰ってみると、子どもの病気は、すっかり治っていた、ということです。

わたしたちも、民族や国籍が違ういろいろな国の人たちと、心を開いてたくさんであっていきたいと思います。最初は、お互いが違うことにとまどうかもしれませんが、自分と違ったところのある人と仲よくすることができれば、自分の心も大きく広がっていきます。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

56番

31番

やってみよう

机の上に人数分のお皿を置きパンを少しずつ切って入れてみんなで食べてみましょう。

次に机の下に紙を敷いてパンを小さくちぎってばらばらと置き机の下に入ってパンを食べてみましょう。

どっちが美味しい？ 机の下で食べるのも面白いし美味しいかもしれないねえ。

でもいつも何時も机の下で食べるのはどう？ ちょっと犬みたいねえ。

もしこれがパンでなくてとっても美味しいケーキだったら机の下におちたのも食べる？ 等々 話し合ってみましょう。

高学年

イエスさまは「子どもたちのパンを取って子犬にやってはいけない」と言われました。

いつもイエスさまは優しいと思っていたけどなんだか意地悪みたいですね。

子どもたち、って誰の事でしょう。子犬って誰の事でしょう。話し合ってみましょう。

★暗唱聖句

「エッフアタ」

マルコによる福音書 7章 34節

★ねらい

- ・イエスさまのいやしの業は、自分が注目を集めたり、有名になるためのものではなく、目の前の困難な中にある人に対する、心からの共感から出たものであることを学ぶ。

★説教作成のヒント

- ・イエスさまのなされた奇跡の業についての話は、大人の方がかえって理解が難しいことがある。
- ・奇跡の実態がどうであったか、という問題は横におくとしても、イエスさまの行為の動機の部分に焦点をあてて学ぶという方法もある。
- ・身近な事例から、相手の立場を深く思いやって行動に移していった人物を取りあげて学ぶことが出来る。
- ・ここでとりあげて井深八重さんについては、インターネットなどからも情報を得ることが出来る。

★豆知識

- ・イエスさまや弟子たちが日常的に使っていたのは、アラム語である。しかし新約聖書は、地中海世界の共通語であったギリシャ語で書かれている。
- ・今週の聖句で取りあげられている「エッフアタ」は、新約聖書の中でアラム語表記がそのまま使われている珍しい箇所である。
- ・他のアラム語表記は、「タリタ・クム」(マルコ 5:41)などがあげられる。

★説教

みなさんは、ハンセン病について聞いたことがありますか？ ハンセン病はウイルスの感染によってかかる神経の病気ですが、昔は一度かかったら一生治らない恐ろしい病気だと考えられていました。そのためこの病気にかかった人は、家族から見捨てられるようにして、社会から切り離された山の中などにある専門の病院に強制的に入院させられました。そして、病院から一步も外に出ることも出来ずに、一生、病院の中だけで、貧しく、厳しい生活をしながら生きてきたのです。このハンセン病の患者さんのために、看護婦として一所懸命働いた女性に、井深八重さんという方がおられます。彼女は、お金持ちのおじさんの家で何不自由なく大きくなりましたが、22歳の時に結婚を前にしてハンセン病だと診断され、何も知らされないまま、ハンセン病専門の神山復生(こうやまふくせい)病院に無理やり入院させられてしまうのです。結婚もダメになり、学校の先生の仕事も失って、社会から切り離されてしまった八重さんは、怖い所だと思われていたハンセン病の専門病院に入れられて、いったいどんな気持ちだったのでしょうか。

けれども彼女は、その病院でひとりのカトリックの神父さんに出会います。この神父さんは、恐ろしい病気だと思われていたハンセン病の患者さんたちと、笑顔で親しく交わり、この神父さんのもとで、患者さんたちが生きる喜びを取り戻しているのです。彼女はそこで、聖書の言葉と向き合い、神さまに従って生きるこの意味を深く考えさせられました。

その病院で一年の時が過ぎ、東京の病院で再び診察を受けた八重さんは、なんと自分の病気がハンセン病ではなかったことを知らされます。最初のハンセン病という診断は間違いだったのです。彼女は、晴れて自由の身になったのです。

けれども彼女は、自分が出会った神父さんや患者さんたちを忘れることが出来ませんでした。彼女は看護師になるための学校に入学して勉強し、正式に看護師となって、自分が入院していた病院の看護師となったのです。人々の偏見が強かった時代に、社会から見捨てられてしまったような病院での仕事は本当に大変でしたが、彼女は高齢になるまで、患者さんたちのために献身的に働き続けたのです。

今日の聖書の箇所イエスさまは、耳が聞こえず、上手くしゃべることが出来なかった人を前にして、「深く息をついた」、といいます。それはイエスさまが、目の前の人の苦しみを、自分の苦しみのように感じて、深く共感した、と言う意味です。

わたしたちは、イエスさまのように病気を治す不思議な力は持っていません。けれども、イエスさまのように、困っている人、苦しんでいる人の姿を見て、その人の気持ちを想像してみることが出来ます。もしわたしたちが、そのような想像力をもっているのであれば、困っている人を目の前にした時に、自分が出来ることをすることによって、小さな事でも、何か手助けをすることが出来るのではないのでしょうか。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 2 3 番

1 3 3 番

やってみよう

カチカチと音のする時計を持って来る。

自分の耳に指を入れて時計の音が聞こえるか聞こえないか試してみる。

二つのチームに別れて 片方のチームはみんな耳に指を入れて聞こえない様にする。

別のチームが声を出さないで大きな口をあけてみんなで「イエスさま」とか「せいしょ」とか好きな言葉を言って当ててもらおう。出来たら交替する。

耳の聞こえない人、聞こえにくい人はどんな時に困るか想像して話し合う。

高学年

昔は体の不自由な人は（耳でも目でも手足でも）みんなから差別されていたことを学ぶ。

イエスさまは差別されている人や弱い人も神様から選ばれた大切な一人であることを色々な時に私たちに教えて下さいました。聖書の中でどんなお話があったかおもいだしてみましよう。

★暗唱聖句

「わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。」

マルコによる福音書 4章 35節

★ねらい

- ・メシアであるイエスさまが、私たちが救うために十字架について下さったことを学ぶ。

★説教作成のヒント

- ・焦点となる事柄が複数あるが、1回の説教で複数の事柄を学ぶのは困難である。焦点をどこにあてて学ぶかを絞って説教を組み立てる必要がある。
- ・ここでは、ペテロの「あなたは、メシアです」、という応答に注目して、イエスさまがメシアであることの意味を学ぶ説教とした。

★豆知識

- ・「メシア」は、もともとヘブル語で、「油を注がれたもの」を意味する言葉である。
- ・油注ぎは、神さまから与えられた、特別な使命を果たすために、神さまが特別な力を王や預言者に注がれることの象徴的行為であった。
- ・この「油注がれたもの」=メシアが、神さまから使わされた救い主を意味する言葉となっていった。
- ・ギリシャ語の聖書を日本語に翻訳するにあたって、新共同訳聖書は、ヘブル語の「メシア」に相当する「キリストス」という単語を、救い主の称号として使われている箇所では「メシア」、イエスさまの固有名詞のように使われている箇所は「キリスト」と訳し分けているのである。

★説教

みなさんが尊敬するのは、どんな人ですか？ お父さんやお母さん、サッカーや野球の選手、幼稚園や学校の先生、学者さんや総理大臣を尊敬している人もいるかもしれません。みんなが尊敬している人について、友だちどうして話しあうこともあるのではないのでしょうか。

イエスさまも、みんなにわかりやすく神さまの話をしたり、病気の人を治したり、不思議なわざをたくさんなさったので、町や村のいろんな人が、イエスさまについていろんなうわさ話をしていました。人気抜群だったのに悪い領主によって殺されてしまった洗礼者ヨハネが生き返ったのだろう、とか、聖書に書かれた昔の偉い預言者が生まれ変わったのだろう、という人たちもいました。でも、その時は誰ひとりとして、イエスさまが本当は誰なのか、ということは知らなかったのです。

そこでイエスさまは、お弟子さんたちに、あなたたちは私が誰だか判りますかと、お尋ねになりました。このイエスさまの質問に、ペテロさんが代表して、「あなたはメシアです」、と答えました。そしてこの答えは、大正解だったのです。

さて、ではメシアというのは、どういう意味でしょうか。メシアというのは、「みんなを救って下さる方」、という意味です。「みんな」というのは、お弟子さんたちだけのことでなくて、イエスさまのことをうわさ話していた人たちも、そしてそれから2000年後に生きているわたしたちのことまで、ぜんぶ含めて、本当に「みんな」、ということなのです。

ではイエスさまは、いったいどうやって、わたしたちまで救って下さる、という

のでしょうか。神さまには、そのための特別の計画がありました。それは、イエスさまが十字架につかれることです。イエスさまは、何も悪いことをなさらなかった方でしたが、わたしたちやお弟子さんや、イエスさまのことを信じなかった人たちも含めて、みんながした悪いことの全部の責任を背負って、十字架につかれたのです。そしてそのことによって、イエスさまは、みんなの人を救うという神さまの計画を完成されたのです。

イエスさまは、その計画をお弟子さんたちに話しましたが、ペテロさんをはじめ、お弟子さんたちは、そのときには、まだその計画の意味がよくわかりませんでした。けれども、イエスさまが本当に十字架につけられた後、神さまの力によってそのことの意味を本当に理解して、イエスさまの救いについて宣べ伝える人になっていったのです。

わたしたちも、お弟子さんたちが伝えてくれたイエスさまの十字架の意味について、しっかり考えていきたいと思えます。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 1 8 番

1 2 6 番

やってみよう

牛乳パックで十字架を作ってみる。1 0 0 0 ml を縦に 2 個つなぎ、5 0 0 ml 2 個を両横につなぐ。人数がお多いときはパックを増やしてもっと大きな十字架を作ってみよう。

ゲーム

子どもたちは輪になって座る。鬼が一人輪の外にでて十字架を持つ。

皆が歌っている間に鬼は十字架を持って皆の後ろを歩きそっと誰かの後ろに十字架を置く。

ハンカチ落としの要領でみんなは手を後ろにやって十字架がないか探る。十字架を見つけた人は十字架を持って鬼を追いかける。追いつかれる前に席を立った人の場所に鬼が座ったら勝ち。十字架を置かれた人が鬼になる。十字架を持った人に追いつかれたら鬼はもう一度違う人の後ろに十字架を置く。

♪ じぶんのじゅうじかをせおっておいでー（くり返し歌う）

上級生

牛乳パックで十字架を作って白い紙で貼る（字がかける様に）

自分の十字架って何だろう？話し合って自分の十字架だと思うもの、思う事を十字架に書き込んでみる

★暗唱聖句

「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、
わたしを受け入れるのである。」
マルコによる福音書 9章37節

★ねらい

- ・イエスさまが求めておられるのは、自分の都合を優先した自己中心的な態度ではなく、もっとも小さい者たちのために、自分を差し出す態度であることを学ぶ。

★説教作成のヒント

- ・33節~35節と、36節~37節は、厳密に考えるなら違った課題を取り扱っているといえる。
- ・ここでは、前半の課題を中心に引きあがつつ、後半の課題へと敷衍して展開した例を示したが、どのような引きあがりをするかは説教者に委ねられている。
- ・ちなみに、「子ども」という存在に、より中心的な焦点をあてているのは、聖霊降臨後第19主日の日課の方である。
- ・ここでは、日本という国が負っている過去の負の歴史にてらして、あえて個人ではなく国家という単位で、自己中心的な態度のもつ罪の問題を考察した。
- ・もちろん、身近な出来事を事例にして、イエスさまが「いと小さき者」に対して、どのような態度を求めておられるかを考えてみるのもよい。

★豆知識

- ・イエスさまの時代、人間の存在についての価値基準は、いかに律法を遵守することができるか、という基準から評価された。
- ・したがって、定められた律法を守ることの出来ない「子ども」は、律法に照らして「無能力者」の代表であり、「子ども」であることに価値は見いだされなかった。
- ・したがって、偉くなることを求めた弟子たちの真ん中に、「子ども」を立たせたことは、無力な者、無価値と判断される者を優先するというイエスさまの姿勢を、弟子たちに明示するという意味を持つことになった。

★説教

みなさんは、日本が中国やアメリカと戦争をしていた頃の話を知っていますか？ そのころの日本の国は、アメリカやイギリスといった工業の進んだ国に追いついて、そうした国を打ち負かすために、大きな軍艦やたくさんの武器を作りました。そして、たくさんの武器を持つことが出来たから、もう自分たちはとっても偉い国になったのだ、と勘違いをしてしまったのです。そして、日本は天皇という神さまみたいな人が治めている特別な国だから、どこの国と戦争をしても、もう負けることはない。そんなふうに思って、あちこちの国に戦争を仕掛けていったのです。

特に、台湾、朝鮮半島、中国など、アジアの国々にどんどん兵隊を送り、日本はアジアの国のリーダーとして、アメリカやイギリスと戦うのだから、日本以外のアジアの国は、みんな日本に従うべきだ、と張り切っていたのです。

けれども、本当のリーダーというのは、相手の気持ちをよく理解することが出来る人でなければなりません。朝鮮半島や中国の人たちは、日本がアジアのリーダーだといってたくさんの兵隊を送り込んでくること、そして、そうした武力にものを

言わせて、自分たちの国の政治を支配してしまうことを、ちっとも喜んではいなかったのです。

その結果、日本がはじめた戦争は、アメリカやイギリスと戦いながら、中国や朝鮮半島の人たちからも抵抗を受けて、結局日本は戦争に大負けしてしまうことになりました。

イエスさまは、お弟子さんたちが「誰が一番偉いか」と論じあっていた時に、「一番先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」と言われました。一番偉い人、つまり本当のリーダーというのは、周りの人の気持ちがよくわかって、たとえ人が見ていなくても、自分のためにではなくて、その人のために一所懸命尽くすことが出来る人でなければなりません。他の人の気持ちを理解して、その人のために尽くそうとするときには、たとえ他の人が誰が見ていなかったとしても、神さまがちゃんと見ていて下さるのです。

もし、日本がほんとうにアジアの国々のリーダーになろうと思うのなら、自分たち日本の都合ばかりを考えるのではなくて、いろんなことで困っているアジアの国の人たちのために、その人たちの気持ちをよく理解しながら、本当に必要としている手助けをしていくことが必要です。

イエスさまが、いろんな困っている人たちの一番必要なことのために、心を尽くして働かれたように、わたしたちも一番困っている人たちのことを最初に考えて、助けあっていく者でありたいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 1 番

1 2 3 番

やってみよう

ボール状のもの。運動会の玉入れの玉。新聞紙で作ったような玉。百円均一で買った安いボール、ピンポン玉、等（みかんとか金柑でも）こどもの数だけ用意する。一つひとつにこどもの顔を書く。

玉を投げて入れられるかご、または袋を用意する。

一人が玉を入れる物（籠とか袋）を持って立ち、他の子どもは適当な距離のところから自分の玉を玉入れの要領で籠に入れる。

上級生

このような子ども、って？

こどもの特徴は何？可愛い、わがまま、よく泣く、一人で何にも出来ない、等々それぞれ考えてボールに顔を書いて反対側にこどもの特徴を一つずつ書く。

上級生は新聞紙でボールを作り白い紙で包んでから顔を書くといい。

☆ 玉入れは下級生と同じ様にやってみる。一人で沢山ボールを作って沢山入れてもいい。